

現状の資源の利用状況や廃棄物の現況を踏まえ、次期計画に向けた課題を整理した。

現 状

【資源の利用状況（物質フロー）】

- ・天然資源等投入量や廃棄物等の発生量、最終処分量は減少している一方で、循環利用量は増加
- ・入口側の循環利用率、出口側の循環利用率及び資源生産性は改善

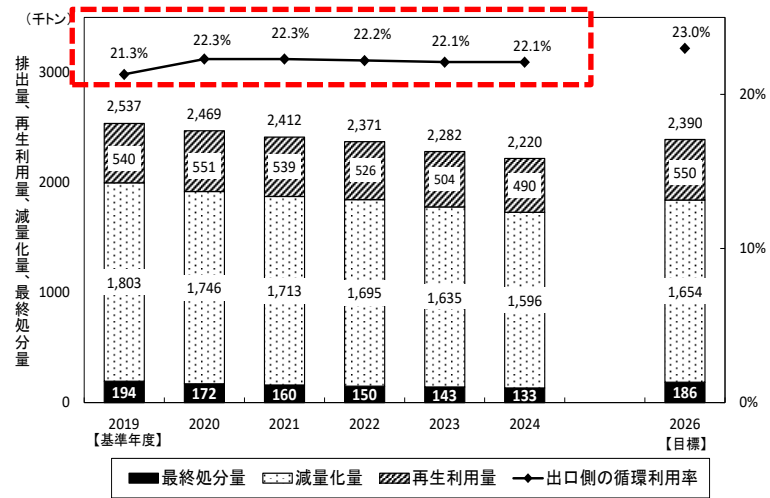
＜主な項目の推移＞

項 目		2019 年度	2024 年度
[入口]	天然資源等投入量	15,258 万トン	13,911 万トン
[出口]	廃棄物等の発生量／最終処分量	2,384 万トン / 94 万トン	2,371 万トン / 90 万トン
[循環]	循環利用量	1,554 万トン	1,596 万トン
[指標]	循環利用率 [入口側／出口側]	9.2% / 65.2%	10.3% / 67.3%
	資源生産性	26.7 万円/トン	33.1 万円/トン

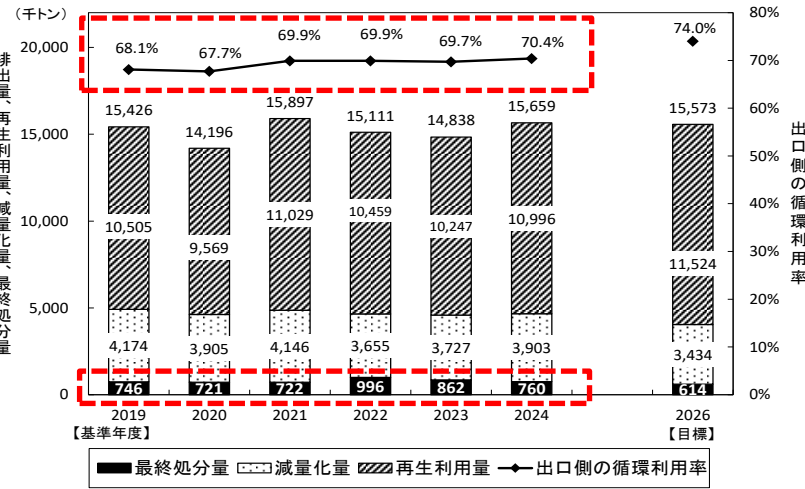
【廃棄物の現況】

- ・一般廃棄物の出口側の循環利用率は約 22%で横ばい（目標の 23.0%には達していない）
- ・産業廃棄物の出口側の循環利用率は約 70%で横ばい（目標の 74.0%には達していない）
- ・産業廃棄物の最終処分量は、削減が進んでいない（目標の 614 千トン、基準年度の 746 千トンを超過）
- ・食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者の割合は 79.2%と低迷（目標の 85%、基準年度の 82.6%を下回る）

＜一般廃棄物の処理状況＞



＜産業廃棄物の処理状況＞

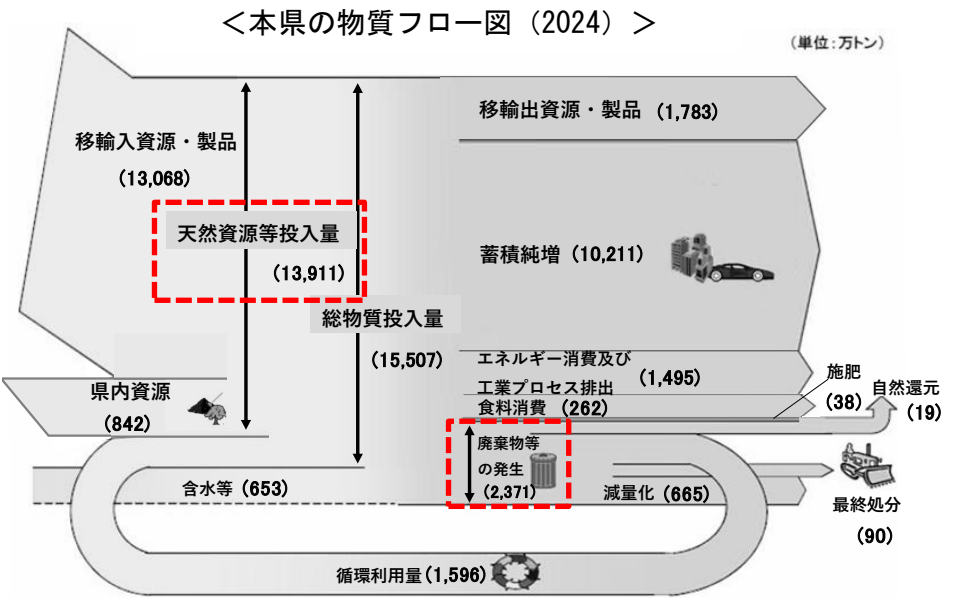


＜食品ロスに係る県民意識の目標の達成状況＞

項 目	計画目標		達成状況
	2020年度 (計画策定時の現状)	2026年度 (目標)	2025年度
食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者の割合	82.6%	85%	79.2%

課 題

- ・循環型社会を実現するため、中長期的には、天然資源投入量と廃棄物発生量を最小化していく必要がある



- ・サーキュラーエコノミーへの転換を加速するため、資源生産性や循環利用率を高める必要がある
- ・廃棄物の発生抑制や再生利用に繋がる取組を一層推進し、一般廃棄物、産業廃棄物の出口側循環利用率の向上や、産業廃棄物の最終処分量の削減を進める必要がある
- ・資源の循環利用に関する意識を高め、行動変容に繋げる必要がある

【施策ごとの課題】

3 R の促進	県民や事業者の行動変容が必要
循環ビジネスの振興	動・静脈産業をはじめとした多様な主体の連携が重要
廃棄物処理施設の整備の促進	計画的かつ効率的な施設整備、公共関与による広域的な最終処分場の新たな施設の確保に向けた検討が必要
適正処理と監視指導の徹底	不法投棄を始めとした不適正処理が未だ撲滅していない
非常災害時等における処理体制の構築	平時から大規模災害発生時に備え、実効性のある災害廃棄物処理体制の構築を図ることが必要
プラスチックごみ削減の推進	海岸漂着物について近隣の県などとの連携強化が必要
食品ロス削減の推進	消費者の認知度が低下しており、効果的な情報発信を実施して行動変容に繋げることが必要